1. **診療科紹介**（膠原病・リウマチ内科領域プログラム）

項　目	内　容
① 診療科名	膠原病内科・リウマチ科
② 診療科の特徴	・東海地区では数少ないリウマチ内科系診療科で、名古屋地区の中核病院の特色を生かし広範囲から多数の患者さんの紹介をいただいています。 ・診療科が充実しており、診断～治療まで一施設で完結できる環境にあります。 ・特に関節リウマチ治療で歴史のある整形外科や、肺高血圧症の経験豊富な循環器内科とは合同カンファレンスを通じて密に連携しています。 ・関節エコーを積極的に活用し、診断・鑑別に役立てています。 ・治験にも数多く参加しており、最先端の治療に積極的に関与しています。
③ 診療科のモットー	患者さんに最新・最良の医療を提供できるように努めています。
④ 診療内容・実績 (2024 年6月時点)	令和5 年度の外来患者数は1日平均62名、年間15093名、入院患者数は328名で、主な疾患は関節リウマチ38名、血管炎症候群39名、SLE23 名、多発性筋炎・皮膚筋炎22名、強皮症29名、ベーチェット病5名となっています。
⑤ 診療体制	リウマチ指導医 3 名、リウマチ専門医 7 名、総合内科専門医 5 名。
⑥ 診療科カンファレンス	週2 回　診療科カンファレンス 合同カンファレンス（循環器内科・整形外科(不定期）腎臓内科（一時休止中））
⑦ 経験できる疾患	膠原病全般
⑧ 経験できる技術・技能	関節エコー、関節穿刺、内科の手技全般
⑨ 学会について	日本リウマチ学会、日本内科学会
⑩ その他	大学病院や他市中病院とのプログラム連携を予定（2025年度）

2. **専攻医・後期研修医へメッセージ**

“膠原病”と聞いてどのようなイメージを持ちますか？

「稀な病気」「診断が難しい」「抗体がいっぱい…」「治らない？」

少しとっつきにくい印象があるかもしれません。しかし入り口の主訴は非常にありふれたもので（発熱、倦怠感、関節痛、皮疹、息切れ、咳、手足のしびれ…）、将来何科にすすむとしても鑑別に挙がる疾患群です。この関節は腫れているのかいないのか？この紫斑は血管炎らしいのかそうでないのか？この不明熱は膠原病らしいか？この抗核抗体陽性は意味があるのか？…後期研修の大切な時期にこうした臨床的疑問への対応を経験することは、必ずや内科医としての今後の診療に厚みをもたせてくれることと思います。

またステロイドやその他の免疫抑制剤、生物学的製剤など、実際に使ってみることでわかる治療薬の知識とともに、免疫抑制下での感染症など合併症との戦い方も経験します。

東海地方で膠原病を学ぶことのできる施設は多くありません。中でも“各専門科のそろった市中病院”という環境は非常に限られています。重要臓器病変（中枢神経、心血管、肺、腸管、腎など）を合併する重症の膠原病患

者さんの診療においては各専門科とも連携も欠かせません。当院は他科とのコンサルトの垣根が低く、必要時は各科と協同することですべての症例に対応可能です。

当科ではフレッシュな若者から経験豊富なベテランまで幅広い層のスタッフがアットホームな雰囲気で診療しています。膠原病の知識だけでなく、当院で専攻医を始める先生方を様々な場面でサポートできると思います。膠原病を一度は専門的な見地から学んでみたいという先生、いっしょに勉強しましょう。お待ちしています。

膠原病・リウマチ内科領域専攻医募集

国立病院機構名古屋医療センター膠原病内科・リウマチ科

経験目標症例数

主要疾患	経験目標症例数（3 年間）
全身性エリテマトーデス	40
関節リウマチ	100
強皮症	30
多発性筋炎・皮膚筋炎	30
結節性多発動脈炎・血管炎症候群	30
混合性結合組織病	20
巨細胞性動脈炎	10
リウマチ性多発筋痛症	20
成人スティル病	10
乾癬性関節炎	5
強直性脊椎炎	5
不明熱	30
シェーグレン症候群・IgG4 関連疾患	30
膠原病性肺高血圧症	5
抗リン脂質抗体症候群	10
血球貪食症候群	10

腰椎穿刺	10
胸腔穿刺	10
関節穿刺	10
血漿交換療法	5
生物学的製剤投与・管理	20
関節エコー	100

診療体制やスタッフ・診療実績などはホームページをご覧ください。